

あんサポ 活動報告会

## 「体調予報」の 取組みを報告

安全運行サポーター協議会（あんサポ、東京都渋谷区）は1日、活動報告会を開催。構築を目指す「体調予報」サービスについての取り組みと今後の予定を発表した。

標準化ワーキンググループ（WG）では、田中充主査（トランスロン）が「体調予報」の実証研究を総括し、得られた成果と課題を説明。会員事業者に実証実験への協力を要請するとともに、「今年が勝負の年だと考えて



酒井会長

おり、精度の向上に取り組んでいく」と意気込みを語った。

ワンストップ化WGでは、川崎光永主査（パラムウントベッド）が説明。安全運行と特に関わりの強い健康因子を総合的にチェックし改善をサポートするため、「スマートスリープチェック」「あたまの健康チェック」「睡眠時無呼吸症候群（SAS）」のワンストップサービスを開始したことを報告。利用した事業者からは好評を得

たという。

酒井一博会長は、「法定の健康診断はたしかに重要だが、年に1、2回で、なにかつフローでできていないケースが多い」と指摘。「体調は3、6、5日良い日もあれば悪い日もある。変化をつかみ、芽が小さい時にリスクを摘み取ることが重要。健康は1日で変わるわけではない」とし、「日々の健康管理と運行管理を『体調予報』で支援していきたい」と語った。（大西友洋）